

「令和」の準備、お済みですか！

「改元」により、印刷物やゴム印の注文が増えています。

「平成」と印刷されている伝票類の訂正用として、「上に令和、下に二重線」のゴム印を承っています。少々面倒ですが、お手持ちの伝票類をそのまま使うために、ゴム印を利用してはいかがでしょうか。

もちろん印刷物の注文も承っておりますので、合わせてご利用ください。

なお、カレンダー通り、4月27日(土)から5月6日(日)まで、お休みをいただきます。

ご不便をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。



※10連休中に「Eco列車でいこう！」の取材に海外まで行ってまいります。どうぞご期待ください！

「Eco列車でいこう！」～第118回～ お花見と湯かけまつり！

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！) 

桜の季節がやってきた。満開の木の下で花見をしたい。お酒も飲みたい。さて、どこに行こうか。

「やすらぎ堤」や「鳥屋野湯」は近すぎるし、「高田公園の夜桜」を見に行くと、帰りが深夜になってしまう...

そうだ、「弥彦」に行こう。電車で約1時間。ちょうどよい距離だ。

4月13日(日)。抜けるような青空ではないが、雨の心配はなく、風もない。お花見日和といえるだろう。

9:22発の越後線「吉田行き」に乗り込む。4両編成の車内。一般の乗客のほか、ハイカーの姿も多い。

車窓から見える信濃川や関屋分水、街なかの小さな公園の桜も満開だ。「内野西が丘」を過ぎると田園地帯となり、右側に角田山、奥に弥彦山が見えてきた。

終点の吉田に着き、弥彦線「弥彦行き」に乗りかえる。2両編成の車内は観光客でギュウギュウだ。でも、わずか2駅、8分の乗車なのでガマン。並行する県道の渋滞を後目に、電車は順調に走り、10時19分、弥彦に到着した。

この日は、年に1度の「湯かけまつり」が行われる日でもあり、また、弥彦駅前ではマルシェ(市)も開かれているので、大変にぎわっていた。

まずは徒歩3分の「おもてなし広場」へ。ここには足湯やマッサージ店、お土産物屋さんなどが軒を連ねている。惣菜屋さんで、牛串、ぶた串、昆布巻きを購入、となりのうどん屋さんでは、とり天、えび天を購入した。ビールとワインを持ってきたので、お花見準備はOKだ。

弥彦公園入口の桜の木の下にシートを張り、花を愛でながら、お酒を飲み、おつまみを食べる。見上げると桜の間から青空が見える。この時期だけの美しい光景だ。隣の団体は、「うたごえ喫茶」さながら「さくらさくら」の合唱が始まった。

ほら貝を吹く音が聞こえてきた。駅前通りに行ってみると「湯かけまつり」の行列が進んできた。「湯かけ」と言っても、荒々しい祭りではなく、お湯に浸した笹の葉を頭の上で振ってもらうというものである。

温泉街を歩いて弥彦神社へ。境内を散策した後、となりの「やひこ競輪場」に入ってみた。残念ながらレースは行われていなかったが、おじさん達が他の競輪場の車券を購入して、一喜一憂。昭和レトロの空気が漂っていた。

帰りは15時11分発の電車に乗る。弥彦駅から吉田方面の線路を見ると、「桜のトンネル」のようになっており、電車を撮影をする「撮り鉄」の人たちがたくさんいた。

電車で行ったので、お酒も飲めたし、渋滞や駐車場探しのストレスもなかった。5月は新緑、10月は紅葉、11月は菊祭りである。ぜひ電車で弥彦へ行ってみたいは、いかがだろうか。Suicaを使った場合、片道運賃は¥756である。

【4月13日(日)】

新	湯	9:22
吉	田	10:19
		10:24
弥	彦	10:32
		15:11
吉	田	15:20
		15:39
新	湯	16:33